

木曾三川 治水と文化の交流誌

2009

冬

木曾川

Vol.69

岐阜県関市

ふるさとの街・探訪記

長良川の清流に抱かれ
商工業の中心地として発展してきた関市

エリア・レポート

長良川の分派川・今川の成立と発明家・岡田只治
気ままに JOURNEY

伝統を受け継ぐ匠の技と円空上人の生涯に触れる旅



コラム 木曾三川一景一話 樋門(ひもん) 樋管(ひかん)

歴史ドキュメント 伊勢湾台風第二編

伊勢湾沿岸を襲った高潮と木曾三川の洪水氾濫

TALK&TALK 平野 久克

伊勢湾台風の被災状況と災害対策



木曾川文庫

ふるさとの街 探訪記

岐阜県関市

長良川の清流に抱かれ 商工業の中心地として発展してきた関市

美濃の中央部、長良川の中流に位置する関市は、水と緑の豊かな自然に恵まれた伝統と文化が生き続ける国際的にも有名な「刃物のまち」です。中世より刀鍛冶・大工など職人が集まり商工業が発達。平成十七年の合併で更なる飛躍が期待されています。

日本の人口重心地・関市

岐阜県南部の中央に位置する関市は、平成一七年の市町村合併により、旧関市を中心にコウモリが羽を広げたようなV字形の市域を形成しています。西側は板取川・武儀川流域で北辺は福井県との県境に至ります。中央部は濃美平野の北端部で関盆地を中心に平坦部が開けており、長良川が中央を

ムゲツ氏と壬申の乱

先土器時代の遺跡として、関地域の赤土坂遺跡からナイフ型石器や彫器などが発掘されています。縄文遺跡では、前期の八幡遺跡(武芸川地域)、中期の笠神遺跡(洞戸地域)などが知られています。

弥生遺跡は、関地域を中心とした地域に多く、縄文時代に比べると長良川と津保川が合流する低湿地に生活圏が移ってきたことがわかります。

古墳時代の遺跡には、美濃市にまたがる8km四方の武儀古墳群があり、武芸川地域の跡部古墳からは変形文鏡が出土しています。古代における当地の有力な支配者として、律令制が確立

であったとされています。

壬申の乱(六七二)で、大海人皇子の命を受け、美濃で兵力を集め不破道を確保した舎人の中に、村国連男依とともに身毛君広の名があります。各務郡村国郷を拠点としていた豪族、村国連男依は乱が終結した後、官中に官位を得て貴族化していきます。一方の身毛君広は、在地に根ざし郡領氏として実権確保に比重を置いていきました。この違いについて、ムゲツ氏は地方豪族として名門であり、その伝統や勢力圏が、村国連氏と比較にならないほど強大であったためとする見方があります。国指定史跡となっている弥勒寺官衙遺跡群

弥勒寺官衙遺跡群



する以前から国造として勢力を持っていた豪族・ムゲツ氏があり、「牟義都」「身毛」などさまざまなに表記されています。領域は定かではありませんが、現在の関・美濃市を中心に郡上郡、山県郡、加茂郡に及ぶ広大な地域



の権勢の大きさを測り知ることができません。

中世に始まった関鍛冶と美濃紙

律令制下で郡領として大きな勢力を誇ったムゲツ氏の名は、平安時代の史料にはほとんど現れなくなりますが、弥勒寺東遺跡の調査によって、平安時代初期まではムゲツ氏が地域の支配者として存続していたとする説が有力になっています。

平安時代後期には武儀庄や志津野庄など摂関家荘園が、鎌倉時代には皇室領荘園の宇多弘見庄・肥田瀬庄・小瀬庄や伊勢神宮領として下有知御厨などと



市街地と長良川 空撮



ふるさとの街・探訪記

の荘園が成立しました。一一世紀後半、美濃の各地に土着化した美濃源氏の中で山県氏が当地域を支配下に置きましたが、承久の乱で京方に味方して敗れた山県氏に替わって土岐氏が勢力を上げてきました。

古来より関は、東山道の枝道飛騨街道、東山道の別道木曾川西古道、尾張から郡上への道などが交差する交通の要衝でしたので、経済が発展し交通量が増えた鎌倉時代に町が発達しました。

鎌倉時代の終わりから南北朝期には、関町を中心に刀剣業が盛んになります。刀剣の古伝書では、元重という刀鍛冶が関町に入って生産を始めたのが関鍛冶の始まりとされています。しかし、元重の存在を裏つける史料はなく、実在した最初の関鍛冶は金重とすることが定説です。金重の作刀のうちもっとも古いものの押形が貞治二年(一二三三)であることから南北朝期に関に刀鍛冶が定着したと考えられます。江戸時代以降も関町の刀鍛冶はひき続き盛んで、太平の世となつてからは家庭用の打刃物類の生産が



元重の碑

多くなつていきます。

刀鍛冶とともに関町は大工の町でもありました。下



新長谷寺

呂市萩原の久瀬八幡宮など多くの神社が関から大工を招いて建立されています。地理的に飛騨からの木材集散地であつたことが建築業発展の要因でしたが、きっかけは鎌倉時代末期から南北朝期の新長谷寺建立の際、多くの職人が集まり完成後も定住していつたものと考えられています。

このほか美濃紙として名高い製紙業もこの頃よりおこつており、武儀川沿い(通称武芸谷)と板取川



武儀川

下流部(通称牧谷)を中心に紙漉きが行われるようになり、大矢田(美濃市)に紙市が立ちました。美濃の製紙は、古代から中央に貢納していたことが明らかになっており、その品質についても北海道諸国産と比べはるかに優秀であつたとされています。当初は武芸谷が生産の中心地でしたが、次第に牧谷が主要な生産地となつていき、江戸時代には原料の楮を他所に求めて生産を拡大していきます。

複雑な所領関係と曾代用水

関町は中世から近世にかけて、商工業の興隆に加え新長谷寺など文化面でも美濃における中心的な役割を果たしてきました。

織豊政権下では、金山城(可児市)の森氏、鉦尾山城(美濃市)の佐藤氏などが領主となつており、関ヶ原の戦い以降は、飛騨の金森氏の領地が多くなっています。慶長五年(一六〇〇)大島光義が増を得て関藩一万八千石が成立しましたが同九年に廃藩となり、以後当地域に藩庁を置く大名は現れず、江戸時代を通して幕府領、尾張藩などの藩領、旗本領、寺社領に分属し領主の変遷がめまぐるしい地域でした。

複雑な支配関係は、この地方に曾代用水という全国的にも珍しい「百姓相対用水」を生み出します。曾代用水は、曾代村(美濃市)で長良川から引水し、上有知村を通過して、松森(美濃市・下有知・関・小瀬・小屋名(関市)各村の原野開拓と本田畑に給水する全長一三kmの幹線水路で、寛文七年(一六六七)着工、延宝四年(一六七二)に完成しました。受益村のうち、松森村は延宝四年に加入、小屋名村は天和年間(一六八四)に加入、江戸時代には多くの村を通る用水は、大名が自領内で村々の利害を調整して運用するのが一般的でしたが、尾張藩領・館林藩領・旗本大島氏領・旗本池田氏領などに分かれてい

た当地では、領主による調整は望めず村同士が直接交渉して折り合う百姓相対用水となりました。

百姓相対用水であるため、曾代・上有知村(井上)と受益村々(井下)の間で補償などを巡ってしばしば争論がおこつており、代官所や尾張藩に訴え出ることもありました。なかでも天保年間の松樋伏せ替を巡る争論は、幕府評定所に訴え出る「天保の大出入り」と呼ばれる裁判沙汰となりました。問題の前提に複

雑な所領関係があるため、こうした井上と井下の争議が解決されるのは明治になつてからです。

津保川の川狩りと小瀬村鵜飼

関市の東端に発し岐阜市芥見で長良川に注ぐ津保川は、上流域で良質の檜が伐採され、木材を流送する川狩りが盛んに行われました。松も多く産出しており、松樋用(八〇〇〇本の松を狩下げた記録などが残っています)とところが、津保川は農業用水にもおいに利用され、元禄一六年(一七〇三)開削の大野用水、万治年間(一六五八〜六一)開削の肥田瀬用水、寛永一四



現在の曾代用水

ふるさとの街・探訪記



津保川

年(一六三七)の倉知用水、開削年不明の稲口用水・川平用水があり、木材の井堰越えによって施設が損傷を受けるトラブルが絶えなかったようです。上有知陣屋は大野村と下之保村に、「嘉永二年(一八四九)の木材川下げについて、川筋に井堰をはじめ取柵などがある所々で破損箇所が出ている。従って井堰の必要が無くなる八月迄は見合わすようにし、(中略)今後は常に川下げする時は申し出る事…」といった取締触書を出しています。

長良川を利用した産業としては、小瀬川の鵜飼が筆頭に挙げられます。小瀬鵜飼は、長良村鵜飼(岐阜市)と並ぶ由緒があり、中世より土岐氏・斎藤氏・織田氏など時々

の権力者に庇護され発展してきました。徳川家康も慶長八年(一六〇三)より鵜飼二一名(小瀬・長良)に一名あたり給米料一〇両と舟を与え、鵜飼持高諸役を免除しています。その後、小瀬・長良とも尾張藩領となりますが、給米は欠かさず支給されたといえます。それでも鵜飼には、かがり松代や鵜の餌代など経費がかさむため生業としては厳しいものだったようで、川筋の変更などで漁を続けることが難しくなり廃業する者もありました。こうした状況に尾張藩は、困窮する鵜飼の待遇改善をしばしば行い鵜飼の存続を図ってきました。



小瀬鵜飼の道具

幕末まで尾張藩の保護によって存続してきた小瀬鵜飼でしたが、明治維新によって存亡の危機を迎えました。明治四年(一八七二)に給米が廃止されると、もともと援助なしでは経営が立ち行かない鵜飼の中には廃業する者も出てきました。政府が保護に乗り出したのは、明治三年(一八九〇)のことで、鵜飼を宮内省主猟局の職員として「長良川筋漁場鵜飼」に任じました。ちなみに「御猟場」は全国で一〇ヶ所が設定され、河川で指定されたのは長良川だ

明治以降の産業の変遷

平成一七年二月に、中濃の中核都市・関市と武儀郡洞戸村・板取村・武芸川町・武儀町・上之保村が合併し新しい関市が誕生しました。伝統的に商工業の中心地として栄えてきた関市と、清流と緑豊かな自然環境に恵まれた町村が一体となることで、それぞれの特徴を活かしながら、新しい魅力を育んでいく展望が開かれました。



世界のブランド「関の刃物」

た工業団地「関テクノハイランド」では先端技術企業の建設が続いています。魅力ある地域づくりを進める農業基盤の整備や、恵まれた歴史と文化・豊かな自然を観光資源として活用する試みも進行しています。また、水資源の涵養や国土の保全など生活環境に重要な機能を持つ森林を健全に育てていくため、植栽や間伐など計画的に実施し、森林の重要性を体感してもらう「ふれあいの森整備事業」や、地元

「水と緑の交流文化都市」を目指して

日本の真ん中に位置する新・関市は、「水と緑の交流文化都市」を目指し、新しい町づくりに取り組んでいます。

活力ある地域産業を育成するため、伝統に支えられた地場産業の高度化に加え、東海北陸自動車道と東海環状自動車道の結節点に近く交通アクセスに恵まれ



関テクノハイランド



デカ木住宅



ふれあいの森整備事業

参考文献

- 『関市史 通史編』平成八年 関市
- 『岐阜県の地名』平成元年 平凡社
- 『関市市勢要覧』平成一九年 関市

木曾三川 一景一話

今号の一景

樋門 (ひもん)
樋管 (ひかん)

木曾三川の堤防を歩いていると様々な構造物に出会いますが、写真①のような構造物を多く見ることができます。これは木曾川など本川の水を取り入れたり、支川の水や輪中内の水(内水)を本川に排水するために、堤防を横断して設けられる施設で、樋門または樋管と言います。この樋門(樋管)には、洪水時や満潮時の本川の水の逆流を防止するためのゲートが設けられ、本川の水位が高くなると閉鎖されます。



写真① 沢北排水機樋管

樋門と樋管の区別は、特に明確に定められていませんが、函渠の大きさが2~3mを境として小さいものが樋管と呼ばれています。



沢北排水機樋管

樋門(樋管)は、明治時代までは『杙』『杙樋』と呼ばれ、その築造の歴史は古く、第19代充恭天皇(5世紀頃)に始まると言われ、水田の増加に伴う「かんがい用水」の利用技術の発達や、洪水から住居や耕地を守るための堤防の築造とともに、樋門(樋管)の構築が始まったと考えられています。

輪中の誕生

木曾三川流域を特徴づける地形として、低湿地の『輪中(わじゅう)』があります。弥生時代に入り農耕が主体の生活が始まると、人々は水田に適している土地を求めて、洪水氾濫域の中で中洲や自然堤防の役目をしている微高地に守られた洪水氾濫の少ない地域に居住を始め、その周辺の低湿地を水田として利用しはじめたと考えられています。

奈良時代(700年代)になると、洪水から住居や耕地を守るために地域の upstream 側に堤防を築いて、洪水の直撃を回避しました。このような堤防を『尻無堤(しりなしつつみ)』と言います。しかし、尻無堤では下流からの浸水など洪水に対する安全性が低いため、鎌倉時代(1200年代)になると耕地の生産性を向上させることの必要性から、下流からの浸水を防御するための堤防が作られるようになりました。この堤防を『懸廻堤(かけまわしつつみ)』言い、これによって一つの集落の住居や耕地など生活圏の周囲を堤防で囲んだ運命共同体としての原始の『輪中』が誕生しました。

輪中の統合と排水樋門

このようにして出来上がった輪中の最大の課題は、輪中堤の維持および雨や生活用水また「かんがい用水」として利用した後の「悪水」の排除でした。この問題を解決するため地域社会の拡大と相伴って、隣接する輪中との統合が行われ、次第に大きな輪中として発達してきました。

現在の高須輪中は1500~1600年代に旧高須・秋江・本阿弥・金廻などの輪中が統合された複合輪中ですが、旧高須輪中は、それ以前の元応元年(1319)に高須・西小島・土倉・蛇池・内記など多くの輪中が共同で『懸廻堤』を築いたことにより統合されたものです。そうして、輪中の下流部には多くの排水樋門が設けられました。

慶長13年(1608)、徳川家康によって御囲堤が築造されて、木曾川左岸の派川のすべてが締め切られました。このため、かんがい用水は、水源を木曾川本川に求めざるを得なくなり、御囲堤に大規模な取入樋が設けられました。これらの工事は、伊奈備前守忠次により行われましたので、諸処に「備前杙」の名が残っているように多くの杙樋が作られています。

また、御囲堤の前に取り残された立田輪中の小輪中群は、寛永元年(1624)に、尾張藩主徳川義直によって佐屋川右岸堤と木曾川左岸堤を結んで一円輪中に統合されました。そうして輪中内の悪水を排除するため「十二腹の杙」と呼ばれていたように輪中の下流端に12基の排水樋門を設けました。

掘り出された金廻四間門樋

「かんがい用水」の取り入れや輪中の悪水排除のために威力を発揮した『杙』や『杙樋』は、すべてが木造でした。その後の河川改修や農業関係事業により近代的な構造へと改築されたため、現在ではその姿を見ることができません。

ところが平成7年(1995)2月、海津市海津町の揖斐川左岸堤防の下から大規模な木造杙樋が発見されました。幅約4間(約7m)、長さ約18間(約32m)の巨大な樋門で、江戸時代末期から明治初期に築造されたものと見られ、西濃地方の地域性を反映した構造物として評価されています。発掘された地名から『金廻四間門樋』と名付けられて「海津市歴史民俗資料館」に復元・保存展示されています。



金廻四間門樋

河辞苑

※河川に関する用語をわかりやすく解説します。
木曾川水系流域委員会 用語集より

◆堤内地(ていないち)と堤外地(ていがいち)

堤防によって洪水氾濫から守られている住居や農地のある側を堤内地、堤防に挟まれて水が流れている側を堤外地と呼びます。昔、日本の低平地では、輪中堤によって洪水という外敵から守られているという感覚があり、自分の住んでいるところを堤防の内側と考えていたといわれています。

◆水門(すいもん)

堤防を分断してゲートを設置した施設を水門と呼びます。水門はゲートを閉めた時には堤防の役割を果たします。

AREA REPORT

岐阜県関市

長良川の分派川・今川の成立と 発明家・岡田只治

関市の南西部は、長良川・津保川が流れる低湿地で、往古より洪水被害に苦しんだ地域でした。中世に出現した今川の変遷と、岡田式渡船で知られる当地出身の岡田只治を紹介します。

市の南西部は洪水常習地域

長良川の本流は、美濃市から南流して関市に入ると弥勒寺跡遺跡群のある池尻で山塊にぶつかり鋭角に曲がり西に少し流れてから南西に流れ、千疋大橋の下流で再び西流、武儀川を合せて南下します。一方、千疋大橋の下流で



今川分派点(左へ今川・右に長良川)

そのまま南西に進む分流が今川と呼ばれ、岐阜市境で再び本流に合流します。武儀川は、山県市の北方から武芸川地区を東南に流下して、関市と岐阜市の境を南に流れ長良川に合流します。津保川は上之保地区の北端に源を発し南西に流れて富加町に入った後、再び関市に入って西に流れを変え、岐阜市東端の芥見で今川に合流しています。これらの河川は市域の人々に大きな恩恵を与える一方、たびたび氾濫して洪

水被害をひき起こしてきました。特に、長良川と津保川が合流する市の南西部は弥生遺跡が多く見られるように太古からの低湿地で、近世の年貢免状や普請関係書類にも洪水被害を窺い知る箇所が散見され、水害常習地域であったと思われる。

今川の出現と変遷

長良川本川については、有史以来現在とほぼ変わらない流路を流れていたとされていますが、分流する今川は永祿九年(一五六六)の洪水によってできた流路と考えられています。論証となつているのは、長泉寺文書「葉師如來再興略縁起」で、「永祿九丙申九月二

日昼前代未聞の大雨にて(中略)其時本名村過半流れ失せて東南の岸し川瀬となりぬ。是を今川といふなり」とあります。今川の出現によって、長良川・津保川・今川の三川に囲まれ川中島になった戸田村・側島村と下白金村のほらみょう保明地区は保戸島と呼ばれるようになりました。

永祿九年にできた流路のその後の通水については記録がありませんが、二〇〇年以上経った天明二年(一七八二)に今川に切り入れ(洪水によって大水が流れ込むこと)があり、これ以降、関市域における治水上最大の課題は、今川の切所(分流口)の普



長良川から保戸島を望む

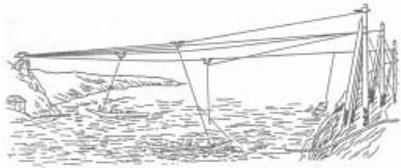
請となりました。天明三年には、それまで分流部に取水口があった用水に替わる新しい用水開発を行っています。さらに寛政一〇年(一七九八)洪水で、大切り入れとなり戸田村をはじめとする保戸島の村々に大きな被害を出しました。この切り入れの後には、今川に六、七割の水量が流れるようになり、本流は流量が激減したため通船が困難になりました。切所の対策として、利害調整の結果、洗越(洗堰)が建造されました。享和元年(一八〇一)にも寛政一〇年に匹敵するほどの大洪水があり、切所・欠所一八ヶ所について国役普請を願ひ出ています。

本流と今川の流量は洪水のたびに変化し、弘化四年(一八四七)の洪水で流れの中心が本流に戻り、安政五



今川

AREA REPORT



岡田式渡船

江戸時代は大きな河川に橋が架かっていなかったため、人や荷物は渡船で兩岸を往來していました。渡船は、雨が降って水嵩が増すと運行できなくなり、非常時でも夜に渡ることはできませんから、地域の人や旅行者は大変難儀をしていました。そうした人々の苦

年(一八五八)洪水では今川通りに平時の通水が無くなりませんが、万延元年(二八六〇)の洪水以降、今川の流量が増加して今日に至っています。

川に囲まれた保戸島は、明治以降もしばしば氾濫被害を受けてきました。特に昭和三四年(一九五九)の伊勢湾台風から三五年一一・一二号台風、三六年六月集中豪雨と三年続けて浸水被害を受けた時には、集団移転がおこったほどでした。その後、堤防の強化に加え、防災会議を設けて地域防災計画の作成と推進が図られてきました。

保戸島に生まれた発明家・岡田只治

岡田式渡船は、川の兩岸にやぐらを組んで渡したワイヤーに船を直角に結び、滑車によって横滑りさせて進むというもので、増水した時でも安全に運航できる上、従来よりも船を大型化することができました。最盛期には、四国の吉野川など全国六〇余力所で採用されていました。

治水・利水にも大きく貢献

岡田只治は岡田式渡船の考案者として広く知られていますが、このほかに稲作改良や養蚕飼育法についても研究があり、桑切鉢も考案しています。岡田の業績のひとつに、各務用水の開発があります。関市小瀬の長良川から取水し各務原台地を潤す各務用水は、明治二年(一八八八)稲葉郡大宮村(現各務原市)村長・横山忠三郎の提



岡田只治

改良や治水に尽力しました。長良川と今川に囲まれた保戸島では、洪水によって幾日も

川止めが続く急病や出産時の処置ができず手遅れになることもありましたが、こうした人々を幼い頃から見てきた岡田は、多年の研究の末、岡田式渡船装置を開発、郷里の戸田の渡しに採用したのをはじめ、太田の渡し(美濃加茂市太田)可児市(今渡)などに採用し、明治三六年(一九〇三)に特許を受けました。



各務用水取水口

案で着工されました。多くの人の利害が絡む難工事に、岡田は技術力で協力し、明治二三年の完成

に貢献しました。治水に関しても「八の字型堰堤」を考案、各務用水取水口付近に施工しています。これは従来の沈床・猿尾がかえって兩岸の土砂を流失させ川の中央に洲をつくってしまう欠陥を是正するため、兩岸より相対して一五〜二〇度の角度で上流に向かって杭柵を設け八の字形の堰堤を築くもので、水勢が川の中央に向かい溜まった土砂を押し流して兩岸に分配するとしていました。



岡田只治顕彰碑

水害常習地帯に生まれた岡田只治は、洪水に苦しむ人々を救うため私財を投入して研究・開発を続け、大正三年(一九一四)六五歳で病没しました。郷里保戸島にその功績を讃える顕彰碑が建てられています。

参考文献

『関市史 通史編』平成八年 関市

第30回全国豊かな海づくり大会

〜ぎふ長良川大会〜
平成22年 岐阜県開催

平成22年6月(予定)に「第30回国豊かな海づくり大会」が史上初めて内陸県の河川で、森から川へそして海へ、ふるさと・ぎふの清流づくりを基本理念として岐阜県で開催されます。

式典・放流行事／関市
歓迎レセプション／岐阜市



放流予定地 池尻地内長良川

式典では、「天皇陛下のお言葉」、大会決議、功績団体等の表彰などが行われ、放流会場では、天皇・皇后両陛下による「御放流」と県内外の招待者による放流が行われます。

伝統を受け継ぐ匠の技と

円空上人の生涯に触れる旅

飛び散る火花をもとせせず、赤く熱した鋼に大鎚を打ち下ろす刀匠の気迫。夜の川面に映える松明の炎と古式ゆかしい装束の鶴匠。伝統の技を伝える匠と漂泊の造仏聖・円空上人の末期の地・関市を訪ねます。

関鍛冶の歴史と技に触れる

東海北陸自動車道を関インターで下りて市街地に入ると、そこは刃物の町・関。ドイツのゾーリンゲン、イギリスのシェフィールドと並んで世界的な刃物の生産地で刃物の3Sと呼ばれています。この地で刃物の生産が行われるようになったのは、鎌倉時代までさかのぼります。いい伝えによれば、寛喜元年(二二九年)伯耆国より元重という刀匠が来て、刀を打ち始めたのが始まりとか。焼刃に用いる良質な土、豊富に入手できる松炭、長良川の水など刀鍛冶に必要なものがそろっていた上、交通

一大産地に成長しました。

そんな刀鍛冶の歴史と技を現代に伝えている施設が、「関鍛冶伝承館」です。



関鍛冶伝承館

一階の展示フロアには、「関の孫六」の名で知られる二代兼元や、兼定など名匠が鍛えた業物が整然と並び、その牙えやえとした美しさは見る者の目を引きつけます。製造工程・歴史に関する資料や刀装具の展示も充実、日本刀の魅力や堪能できるフロアになっています。二階は、カスタムナイフ作家のコレクションなど関の刃物文化から生まれた製品がずらりと並び壮観です。

の便に恵まれた関の町には、全国から刀鍛冶が集まり、「関は千軒鍛冶屋が名所、鍛冶屋がなければこりゃ山家」と謳われる

関鍛冶伝承館のメインイベントは、なんとといっても、日本刀鍛錬の実演です。正月二日の打初め式は、正月の風物詩としてテレビでよく紹介されるのでご存じの方も多いいと思います。白装束に身を包んだ刀工が炉で熱した鋼を大鎚で叩いては折り返す「折り返し鍛

錬」で、鋼の中の不純物が火花となって飛び散る様子は迫力満点。刃物まつりや一般公開日には鍛錬のほか、鞘づくりの実演などが行われます。

伝統漁法を守る小瀬鶴飼

刀鍛冶と並んで関を代表する匠といえは、一千年以上の歴史を誇る小瀬鶴飼の鶴匠です。シーズンオフのこの季節、小瀬の長良川河岸には、屋形船が寄り集まるように繋がれ少し寂しげな風情を感じさせてくれます。観漁期の五月から一〇月には、この船からかり火に照らしたされる鶴と古式ゆかしい装束をまとった鶴匠が織りなす幻想的な光景が見られると思うと不思議な感じですよ。

鶴飼は、世界各地で太古より行われてきた伝統漁法で、日本でも奈良時代には全国で営まれていたそうです。小瀬鶴飼の歴史は古く、奈良時代の史書にある「美濃鶴飼」の伝統を受け継いでいるといわれ、平安時代に醍醐天皇から賞賛され、織田信長は「鶴匠」とい

名称と、鷹匠と同等の待遇を与えたそうです。現在わずかに残っている鶴飼の中でも、小瀬鶴飼はいにしへの趣をもっとも色濃く残しているといわれ、ショーとしての鶴飼ではなく漁の妙技を守り伝えているのが特徴です。

関市には長良川のほか、板取川、武儀川、津保川が流れ、アユやイワナ、アナゴなど清流に棲む魚が多く釣りが楽しめます。板取川は観光やナで有名ですが、さらに上流に遡っていくと川浦溪谷などの景勝地やキャンプ場が多く、子供たちが川遊びを楽しむスポットが充実



日本刀鍛錬実演館



やすらぎの郷



川浦溪谷

関市の歳時記

◆ 関まつり ◆

4月中旬

春日神社の「とうじやこう」、けんかみこしの「倉知祭」など市内各地で行われ、なかでも本町通を会場に行われる「あんどんみこしコンクール」では何十基もの手づくりみこしが練り歩きます。



◆ 花馬まつり(武芸八幡宮春の大祭) ◆

4月中旬の日曜日

和紙と竹で造った桜花を背中に飾った四頭の馬が次々と神社の境内に駆け込むと、待ち構えていた氏子・観光客らがどっと詰め寄り、一斉に花を奪い合います。奪った花を円形にして家の屋根に上げておくと落雷防止、家運隆盛に御利益があると伝えられています。



【開催場所】武芸八幡宮

イベントカレンダー

・初観音(吉田観音)	2月18日
・刃物のまち関シテイマラソン	3月第3日曜日
・水無神社の例大祭	4月15日に近い日曜日
・ふるさと夏まつり花火大会	8月第1土曜日
・サマーフェスタ日本平成村	8月中旬
・刃物まつり	体育の日の前の土・日曜日
・高賀神社秋の大祭	11月3日
・古式日本刀鍛錬及び刃削研磨等外装技術の実演(関鍛冶伝承館)	
	3・4・6・11月の第1日曜日



● 交通のご案内 ●

◆ 名古屋方面からお車をご利用の方



◆ 公共交通機関をご利用の方



● お問い合わせ ●

◆ 関市役所 ◆

〒501-3894 岐阜県関市若草通3丁目1番地
TEL 0575-23-3131(代) <http://www.city.seki.gifu.jp>

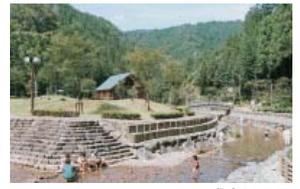
小瀬鵜飼の屋形船を見下ろしながら鮎之瀬橋を渡ると円空上人ゆかりの弥勒寺跡に行きあたります。弥勒寺は、古代豪族ムゲツ氏の氏寺で大和法起寺様式の伽藍配置だったといわれる大寺

円空入定の地と高賀山

してきます。津保川沿いでも、「八滝ウッディランド」「やすらぎの郷」などキャンプ場を中心とした総合アウトドアレジャー施設や、気軽に自然と親しむ「平成自然公園」が行楽客でにぎわいます。



小瀬鵜飼



平成自然公園

長良川を離れて北に向かい、武儀川左岸の「武芸川ふる



円空入定塚

です。江戸時代のはじめ、美濃に生まれて全国を旅しながら仏像を彫り続けた円空は、人生の大半を一所不在の旅人として生きましたが、晩年はこの地で弥勒寺再興に心血を注ぎました。そして元禄八年(一六九五)入定の地を弥勒寺近くの長良川河畔と定め、修行に終始した六四年の生涯を終えました。幼い頃、母を長良川の洪水で失った悲しみから仏門に帰依したという円空。そんな彼にとって長良川は、特別な存在だったのでしょ。円空入定の地のほど近くに建てられた円空館には、市内で見つかった円空仏が多数展示されています。

高賀神社は、創建養老元年(七一七)



虚空蔵菩薩像 (撮影:尾見重治)

代から信仰の対象として、多くの参拝者や山伏たちが訪れた神の山。麓の高賀神社は、創建養老元年(七一七)に立ち

と館」に立ち寄ります。この地は、江戸時代を代表する禅僧にして禅画の巨匠・仙厓和尚の生誕地。ふるさと館では、禅の教えをユーモラスに描いて「阿々大笑」と評された仙厓の作品が間近に見られます。



仙厓画「花見画賛」

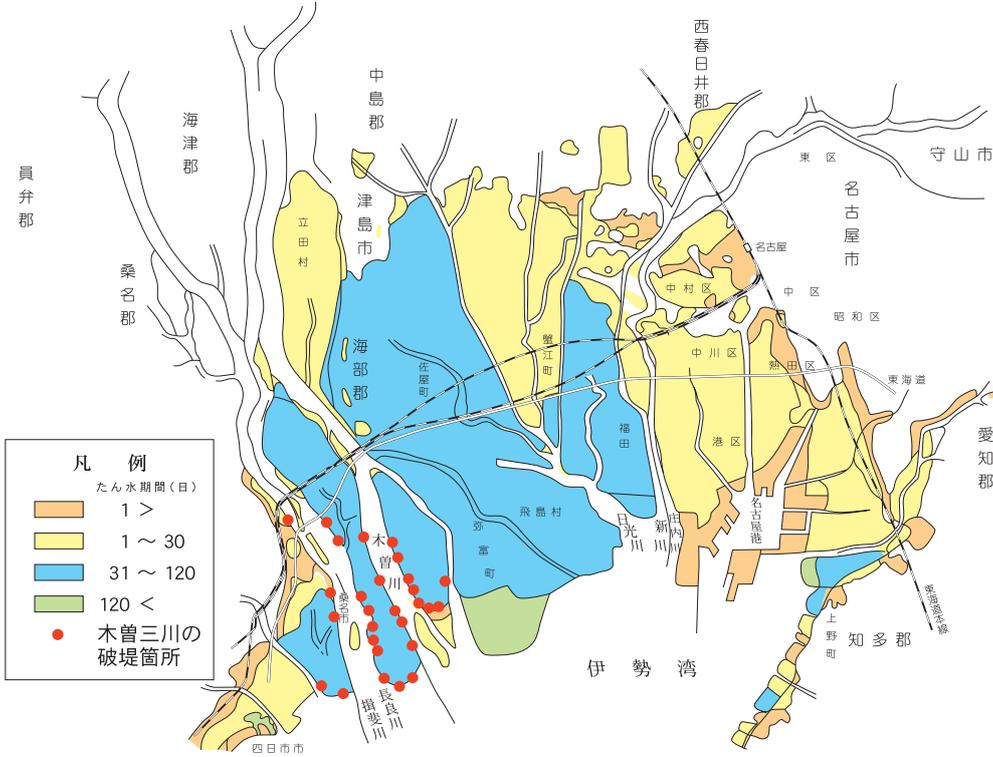
といわれ、藤原高光公が妖魔を退治した伝説が残る由緒ある神社です。平安時代からは、神仏混合思想を反映して境内に多くの寺院が建てられ、現在も平安から室町時代にかけての貴重な仏像が宝物殿に残されています。円空は高賀神社に多くの仏像を奉納していますが、全国にもこの一体のみとされる歡喜天は、最後の造仏と伝えられています。神社近くの円空記念館には、この歡喜天をはじめ最高傑作と評される一木造り三像、昨年東京国立博物館に特別展示された虚空蔵菩薩像などが並び、優しさと慈愛に満ちた円空の世界に浸ることができます。

伊勢湾台風

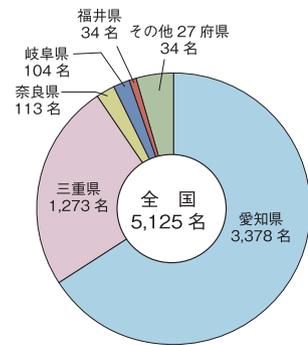
第二編

伊勢湾沿岸を襲った高潮と

木曾三川の洪水氾濫



高潮による浸水状況



県別死者・行方不明者数

最高の高潮が発生した伊勢湾奥に位置した名古屋市南区・港区では、弥富市の海岸部に開発された鍋田干拓地では、昭和三年(一九五六)から入植が始まっていたが、海岸堤防が完全に破壊され、入植者一六四戸三一人のうち三三三戸で家族全員が亡くなるなど、入植者の四二パーセントにあたる一三三人の方が犠牲となりました。

木曾川河口の導流堤工事に従事して

史上最大の伊勢湾台風は、全国にわたりその爪痕を残しました。死者・行方不明者が発生した府県は、南は愛媛県・広島県から北は北海道までの三二都道府県に及びました。その中でも台風被害の中心となった東海地方の被害額は約五、五四二億円。死者・行方不明者は、岐阜・愛知・三重の三県で四、七五五人にのぼり全国の九三%を占めています。このことから伊勢湾周辺がいかかに激甚な災害を蒙ったかがわかります。



木曾三川河口部の湛水状況

一、七九二人の人命が失われました。これは、人口密集地に史上最大の高潮が襲いかかったことと、貯木場の木材などが流材となつて激流に加わり、その破壊力を増加させたことが原因とされています。

寸断された海岸堤防

九月二六日、台風の進行とともに湾口から湾奥へ向けて高潮が押し寄せてきました。湾口の濱島で二・〇mを記録した高潮は、松阪では二・二二mへ上昇し、一九時には津で二・五四m、二一時一〇分には四日市で三・二九m、木曾川河口の横溝蔵で三・五二mに拡大し、二二時三五分湾奥の名古屋港では三・八九mを記録しました。この高潮は、各地で海岸堤防を越えて破堤を引き起こしました。飛鳥村では二六日二〇時に浸水が始まり、名古屋市港区でも二〇時過ぎには広範囲に浸水が現れていました。

一方、木曾三川河口の木曾岬村(現木曾岬町)では、海岸堤防のすべてが破壊され三二八人の方々が高潮の犠牲となりました。また、木曾川と長良川に囲まれた長島町(現桑名市長島町)でも三二八人の方々が犠牲となりました。

歴史ドキュメント

	行政区人口	死者行方不明者	死者行方不明者千人率
木曾岬村	2,993	328	109.6
長島町	8,708	383	44.0
飛島村	4,290	132	30.8
川越村	7,718	174	22.5
弥富町	16,037	322	20.1
名古屋南区	146,500	1,417	9.7
名古屋港区	91,591	375	4.1

行政区別死者行方不明者数

いた建設省職員の体験によると、二六日二〇時過ぎには桑名市城南干拓地の員弁川左岸堤防の上を高潮が越えていたと言います。そうしてまもなく城南海岸の堤防が破堤し、城南干拓地へ高潮が浸入するとともに、各地で海岸堤の破堤が始まりました。

長島町を守る海岸堤防は、明治改修を契機として再築された松蔭新田の一、六〇〇mの輪中堤ですが、押し寄せる高潮によって二ヶ所が破堤し、奔流となった海水が一気に輪中内を押し流しました。また、木曾川左岸の木曾岬村では、海岸堤防一、〇九〇mが全壊し、高潮が村内を押し流しました。

史上最大の高潮は、木曾三川を遡上し河口より約一二kmの船頭平(愛知県愛西市)では二六日二時から二二時の間に木曾川で標高四・二七メートル、長良川で標高四・二二メートルを記録し、さらに河口から約二四km地点の

河川を遡上する高潮



破壊された城南海岸の堤防

成戸(岐阜県海津市)においても木曾川で標高五・三七m、長良川で五・一九mを記録しました。

この高潮によって河口部の各所で河川堤防を破壊するとともに多くの樋門・樋管をも破壊して、海水が流れ込み輪中地帯を水没させました。揖斐川右岸の桑名市では、桑名市地蔵で一〇〇m、河口から六・四km上流の桑名市上之輪で四〇mを破堤させ、城南干拓地を含めて一、三二〇haに浸水、激流によって一九八人の人命を奪い、二、三〇二戸の家屋を破壊し、罹災戸数は七、九一八戸に及びました。

	全壊戸数	半壊戸数	流失戸数
岐阜県	3,853	12,233	118
愛知県	21,381	62,995	2,135
三重県	4,089	12,129	1,191
全国	35,125	105,347	4,486

東海三県の家屋被害状況

百日に及ぶ長期湛水

木曾三川河口部の伊勢湾沿岸一帯は、かつては葭原が広がる低湿地でした。現在の海岸線より五〜一〇kmの範囲の土地は、江戸時代から干拓地として開発され、度重なる高潮洪水の脅威と闘ってきた地域です。

木曾川の感潮域が河口から約二五km付近にま



木曾川左岸堤防の破堤 木曾岬町白鷺

で及んでいるように、これらの低湿地の大部分は満潮面以下で自然排水が極めて困難な地域です。

海岸堤防や河川堤防を破壊した高潮は、その異常潮位と高波による強烈なエネルギーによって津島市付近にまで侵入し、七日以上にわたって約三七、二〇〇haの土地を水没させました。これらの土地では高潮が衰退した後も、ゼロメートル地帯のため、海面と同様に潮汐の影響を受け湛水し、復旧工事によって海岸堤防や河川堤防の破堤口が締め切られて、湛水が排除されるまで浸水被害が継続しました。

河川堤防の最後の締切口となった長島町白鷺地区では、一月一八日一六時三〇分仮締切が完成し、翌年一月五日に排水が完了するまで実に一〇二日にわたる長期湛水を余儀なくされました。

	湛水面積 (ha)
岐阜県	13,054
愛知県	23,119
三重県	3,960

三重県は桑名市・桑名郡のみ
東海三県の長期湛水面積

水没した長島輪中

最後の締切地となった長島町(現桑名市長島町)は、木曾川と長良川・揖斐川に囲まれた輪中の町です。台風に伴って押し寄せる高潮によって海岸堤二ヶ所、木曾川河川堤防五ヶ所、長良川・揖斐川河川堤防八ヶ所が破壊され、長島輪中は完全に水没し長島町全



平和観音像 桑名市長島町

域が海と同様な状態となりました。破堤口から流れ込んだ高潮によって多くの家屋が破壊され、また、これらの浮遊物が凶器となって多くの人命や家屋を破壊しました。

行政区人口に対する死者行方不明者の割合は、木曾岬村が一〇・九六パーセントで最も高く、長島町では、鎌ヶ池地区で九四人のうち三三人が亡くなり、全町では二二世帯で家族全員が亡くなるなど、人口八、七〇八人に対して三八三人が犠牲となりました。家屋の損傷は全世帯一、六七四に対して無傷の家屋は僅か二四三世帯でした。

忘れてはならない河川災害

伊勢湾台風は高潮災害のみではなく、台風が通過した三重県、岐阜県の内陸部においても、強風・豪雨による激甚災害をもたらしました。このため三重県、岐阜県共に異例の県下全市町村に対する災害救助法を発令しました。

災害の原因となる降雨量は、台風の進路上の長良川・揖斐川流域に多く、木曾川流域ではやや少ない傾向をみせ

歴史ドキュメント

ましたが、飛騨川上流の久々野では、一時間雨量三八・五mmを含み二四日から二六日までの三日間に二〇〇mmの降雨をもたらしました。

木曾川は、二六日二〇時頃から急激に増水を始め、二七日六時三〇分には、木曾川鶴沼地点の水位は六・四〇mを記録しました。これは同地点の既往最高水位六・六五mにたいして、あと〇・二五mに迫る洪水位でした。

一方、長良川流域では板取で四〇五mm。揖斐川流域の上流川上でも四五〇mm(いずれも二四日から二六日の三日間雨量)となり、計画高水流量および計画高水位を上まわる既往最高洪水を記録し、本川に流入する支川を含めて各地で氾濫しました。

下流部の成戸では、高潮のピークから約一時間遅れた二七日八時には、計画高水位を〇・三四m上まわる五・八三mを記録しました。これは、高潮による水位よりも一・五一mも高い水位でした。

このため高須輪中・桑原輪中などの各輪中は排水不良となり、各地で内水湛水による被害が発生しました。岐阜県内の内水湛水面積は、一三、〇五四haに及びました。この中でも湛水日数が七日以上の区域は八、一一二haに及び愛知県内の高潮による湛水面積二三、一一九haに比較してその範囲の大きさが注目されます。

長良川芥見で氾濫

長良川上流部では台風通過に伴い強い雨となり、板取では、二六日二時頃から二二時の時間雨量六六mmを含め二五日から二六日の二日間雨量は三八三mmに達する強い降雨がありました。このため



岐阜市芥見の破堤状況

長良川は急激に増水、岐阜市忠節では二二時頃から急激に水位上昇、最高水位は五・五mに達しました。

板取川・武儀川など各支川で破堤氾濫が相次ぎましたが、二七日午前二時頃には、長良川本川藍川橋の上下流で長良川左右岸が破堤し、氾濫域は芥見・加野・三輪など約六〇〇haに達し、芥見では死者行方不明六名、全壊流失家屋四三戸、床上浸水三八八戸の被害が発生しました。

さらに濁流は岐阜市市街地においても堤防を溢水し左岸側では松ヶ枝町や梶川町。右岸側では長良北町から長良平和通りまでに及びました。このため家屋被害は、本荘校区の一、五一九戸、長良校区の一、三四九戸を中心にして岐阜市全域で六、八七八戸に及びました。

被害戸数	5,453
死者	13
負傷者	377
全壊戸数	357
半壊戸数	811
流失戸数	5
浸水戸数	4,250

岐阜市の被害状況

根古地で牧田川破堤

揖斐川上流では、徳山での二六日二〇時から二一時まで七二・五mmの短時間豪雨を含め、二四日から二六日まで川上四五〇mm、樽見三九九mmの強い降雨があり、揖斐川町岡島で一九時頃から急に増水し二七日一時二五分四・七五mの既往最高、牧田川池辺で一時三〇分八・三四mの既往最高を記録しました。

揖斐川・牧田川の水位の上昇に伴い養老町根古地では緊張感が極限に達していました。この地点は八月一三日の七号台風により破堤氾濫し、この九月二〇日に仮締切が完了し、鋭意復旧工事が施工中でした。

しかし、必死の水防作業もむなしく、二七日一時四二分、八月と同じ箇所が再度破堤し、濁流は多芸輪中一円に流れ込み約二、九一三haに氾濫し、最大湛水深は約五m、三四日間にわたって水没させ、一、七七二戸、九、七八一名に被害を与えました。



養老町根古地の浸水状況

多度川氾濫 七郷輪中水没

台風の接近と共に二六日一九時頃より風雨が激しくなり、多度川が増

歴史ドキュメント



七郷輪中の浸水状況

水が始まり二〇時過ぎには、八月の七号台風により決壊し、漸く復旧を終えたばかりの上之郷地先で堤防が再び決壊し、濁流は一気に七郷輪中に流れ込みました。

輪中内流れ込んだ濁流は、二七日二時には八月の七号台風による被災水位を突破して、東福永地区の家屋は二階まで浸水しました。このため七郷輪中二六〇haが完全に水没し、地区民は、輪中の外にあった七取小学校(現多度北小学校)に避難しました。二八日には破堤口の締切復旧に着手するとともに、既設および臨時の排水機により排水が開始されましたが、浸水期間は、一〇月一七日に完了するまでの二〇日間に及びました。

■参考文献

- 『伊勢湾台風復旧工事誌』 昭和三八年四月一日 建設省中部地方建設局
- 『伊勢湾台風災害復興誌』 昭和三九年一月 愛知県
- 『昭和34・35・36年連年災害復興誌』 昭和四〇年二月 岐阜県
- 『復興のあゆみ』 三重県
- 『岐阜市史』 通史編現代 昭和五六年一月 岐阜市



伊勢湾台風の被災状況と災害対策

平野久克氏（前長島町長）



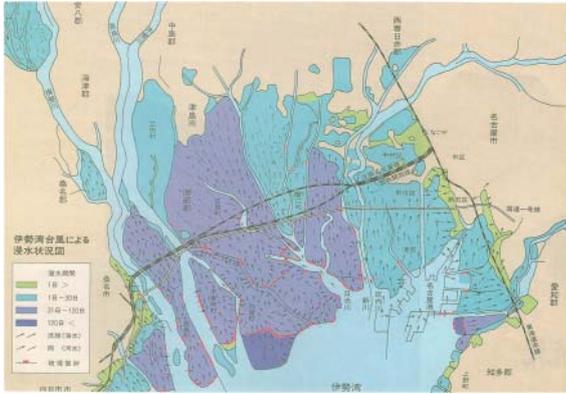
平野久克氏

昭和 11年生。昭和 53年 10月～平成 10年 10月長島町議会議員、この間、昭和 63年 10月～平成 4年 10月長島町議会議長。平成 11年 4月～平成 16年 12月長島町長。平成 18年旭日双光章受章。現在、NPO法人木曾川環境保全機構理事長。

一 はじめに

昭和三四年九月二六日に襲来した伊勢湾台風は、長島町に未曾有の大災害をもたらしました。伊勢湾台風を経験してきた者として、その被災状況と災害対策について私が住み、安全で安心なまちづくりに取り組んだ五〇年を振り返ってみます。

桑名市長島町は、伊勢湾の最奥に



伊勢湾台風による破堤箇所浸水状況

あって木曾・揖斐・長良川の木曾三川河口に位置するデルタ地帯にあり、町全体が海拔ゼロメートル以下の低地で周囲を堤防で囲まれた一つの町が一輪中を形成している特異な町です。町の南端は伊勢湾に面する海岸堤防で守られ、東は木曾川、西は揖斐・長良川に挟まれた河川堤防で守られています。

昭和三四年の伊勢湾台風襲来当時八、七〇八人の人口だった町が、今日では一五、〇〇〇人を超える町に発展し、水郷特有の観光資源に加え長島温泉などの大規模娯楽施設の進出により県内有数の観光地として年間四〇〇万人以上もの人々が訪れ親しまれています。平成一六年二月には桑名市と合併して一四万人都市の一面になりました。

二 伊勢湾台風の襲来

昭和三四年九月二一日、マリアナの東にあった弱い熱帯性低気圧が急速に発達し、九月二二日に台風一五号となり北上。九月二六日の午後六

時過ぎ、潮岬の西一五km付近に最低気圧九二・五ミリバールで上陸。このとき東海地方ですでに風速三〇メートルの暴風雨となっていました。



倒壊寸前の民家（桑名市長島町殿名）

長島町では午後八時三〇分頃、暴風雨・高潮が最高に達し各所で堤防が決壊（一五箇所）、町内は大洪水になりました。翌九月二七日は死者三八三人、家屋の流失・倒壊二五九戸、家屋の全壊二二〇戸、家屋の半壊五八二戸など、未曾有の大災害となり全町が水に沈む悲しい朝を迎えました。

九月二八日、自衛隊に出動命令が出され災害復旧に着手。九月二九日、政府は中部日本災害対策本部を名古屋市内に置いて災害復旧に全力をあげることになりました。一〇月二日、浸水が続



国道1号長栄橋が流失したため、自衛隊によって架橋されたベリール橋

いたままでの復旧が進まず、老幼婦女子は鈴鹿、伊勢方面への避難を自衛隊の支援で始めました。一〇月九日、流失していた国道一号の長栄橋に自衛隊によってベリール橋が架けられ陸路での移動が可能になりました。

十一月八日、堤防の決壊箇所の最後の仮締め切りが完了するとともに、何台もの排水ポンプを据え付けて排水



仮設ポンプによる排水作業(桑名市長島町松蔭)

作業が一斉に始まり、一二月になってようやく全町の排水が完了して本格的な復旧工事が始まることになりました。

三 大きな災害をもたらした高潮

九月二六日午後、風速は急激に強まり午後六時を過ぎると雨戸を突き破るほどになりました。午後七時過ぎ、海岸堤防に出勤していた水防団員は、猛烈な強風と堤防を越える高潮の波で堤防の半分近くが削り取られている状況から、現地におれず引き返そうとする。とともに本部に状況を報告、避難を呼び掛けるように連絡したが本部では想定外の状況に現状を十分把握できませんでした。水防団員は引き返す途中で高波が堤防を越えるのに遭遇、濁流

に呑み込まれ流される結果となりました。

当時の海岸堤防は、外法はコンクリートで消波工が施されていた

が内法は土工であり堤防の高さは四m程度でした。また、河川側は殆どが土の堤防で外法尻に石積みがしてある三m少々の高さの堤防でした。高潮はこれをはるかに越え、輪中を襲いました。

町南部の家々では雨戸が飛ばされたかと思つた瞬間、濁流の壁が水煙を上げて押し寄せるのを懐中電灯の明かりで見ました。避難する余裕もなく濁流



浸水し、2階に避難している人々(名古屋市南区)



無残な姿を見せる損壊川左岸堤防(桑名市長島町白鷺)

に呑み込まれる人、天井から屋根に登る人など、着の身着のまま午後八時三〇分を迎え悲しい日となりました。台風の影響は中部地方全域に広がり、中でも濃尾平野の低地地帯では高潮による被害で甚大なものになりました。

四 復興と対策

伊勢湾沿岸の海岸堤防の計画高や構造が見直され、長島町の海岸堤防と河川堤防の高潮対策区間は両面コンクリート張りの七mを越える堤防に復旧され、さらには濃尾平野一帯の地盤沈下によって一mを超す堤防の高上げ対策、そして平成の大改修ともいう河口堰の建設、長良川の洪水対策と堤防改修によって高潮・洪水に強い堤防改修が進みました。しかしながら、未だ計



防災行政無線 屋外



防災行政無線 戸別受信機

画高に満たない箇所も残されており早期の完成が望まれます。

一方、町内では急ピッチで災害復旧工事が進められ

るとともに、安全で安心なまちづくりを行政の柱として洪水防除・排水対策に力を入れてきました。また、伊勢湾台風当時の情報不足、伝達の不備を補うため、昭和五三年に町内三四箇所に防災行政無線パンザマストを設置するとともに、昭和五五年に伊勢湾台風時の水位等を示す水位標を町内二二箇所に設置、平成四年には全戸に屋内防災無線受信機を備え付けて災害の状況や避難命令などの情報伝達の手段の充実を図ってきました。また、災害用飲料水の貯水槽として庁舎前に六〇m³タンク一基、南



伊勢湾台風水位標



貯水槽



カトリーナにおける浸水被害

ニューオーリンズ市のゼロメートル地帯は、濃尾平野のゼロメートル地帯とほぼ同じ面積を抱える地域で、

伊勢湾台風の大災害を経験しその被災状況と復興の過程を身をもって経験してきた者として参加させていただきました。

私は、平成一七年一月に米国ニューオーリンズ市のハリケーン「カトリーナ」水害調査団の一員として、



ロンドン通り運河左岸破堤口上流端

部と北部地区の配水場に二〇〇〇m³タンク二基を設置して急用の飲料水確保の整備を図ってきました。

●伊勢湾台風とカトリーナの比較（被害）

	伊勢湾台風	カトリーナ
死者・行方不明者	5,098人	1,830人
浸水家屋	190,135戸	約160,000戸
浸水面積	310km ²	374km ²

死者・行方不明者は伊勢湾台風は全国の合計、カトリーナはルイジアナ州・ミシシッピ州・アラバマ州・フロリダ州の合計。浸水家屋・浸水面積は、伊勢湾台風は三重県・愛知県・岐阜県の合計、カトリーナはニューオーリンズ市のデータ。

●伊勢湾台風とカトリーナの比較（大きさ・強さ）

	伊勢湾台風	カトリーナ
最低中心気圧	894hPa	902hPa
最大風速	75m/s	78m/s
上陸時中心気圧	929hPa	910hPa
上陸時最大風速	45.7m/s	65m/s
暴風域	260~300km	140~200km

最大風速：アメリカ・・・1分平均、日本・・・10分平均
暴風域：風速25m以上

（出典：中部地方整備局ハリケーン・カトリーナ水害調査団報告書より）

平成一七年八月に伊勢湾台風と同規模の大きさ（強さ）のハリケーンに見舞われ堤防が決壊しました。浸水した面積と家屋は伊勢湾台風と同じような被害状況でしたが、死者・行方不明者は伊勢湾台風の五、〇〇〇人余に対し一、八三〇人の犠牲者数でありました。伊勢湾台風当時とは時代も違います。災害の状況や避難命令などの情報伝達の重要性、高潮対策の重要性を再確認させられました。



ミシシッピ川河岸に残る出水の跡

難施設の整備、そして中央政府と地方行政機関の連携、地方行政機関の連携支援対策、民間・住民との相互協力、自主防災組織の充

五 おわりに

旧来から輪中に住む人たちは、洪水を見越して倉庫あるいは住宅すべてを石垣の上に（水屋を）建て洪水対策を考慮してきました。こうした民家は伊勢湾台風時最下限の被害で済みまし。今後は、東海地震・南海地震などが予想される今日、堤防の耐震対策や津波対策を含め海岸・河川堤防の更なる改修・補強、人命第一の観点から情報伝達機能の充実、避

実など安全で安心なまちづくりにはハード、ソフト面からまだまだ推し進めていかねばならないと痛感します。伊勢湾台風から五〇年が経過して人口も当時の倍近くに、伊勢湾台風の体験がない住民が多くなっているなか、このような大災害を忘れず防災意識を高めていくために、あらためてこの低地帯に住む我々としては一たん緩急の場合にはどうあるべきだということとをこれからも伝えていきたいと思っています。

ハリケーン・カトリーナ

災害発生日 ●平成17年8月29日
主な災害地 ●米国南部



アメリカ合衆国を襲った自然の猛威
高潮被害で死者は1800人超

アメリカ合衆国を襲ったハリケーン「カトリーナ」は、被害のすさまじさで世界中を震撼させました。ジャズの都ニューオーリンズは濁流で市内の大半が水没、市民48万人に避難命令が出されましたが多数の死傷者を出しました。

- 23日パナマ南東で熱帯性低気圧が発生。
- 24日朝熱帯性暴風雨となり、カトリーナと名付けられる。
- 25日フロリダ半島に上陸。いったんメキシコ湾に抜ける。
- 28日ルイジアナ州に非常事態宣言。
- 29日ルイジアナ州に上陸。
- 30日ミシシッピ州東部を通過。

城山の白狐

上之保

その年は長い間日照りが続き、津保谷の稲田もすっかり干上がってしまいました。「こりゃあよいよ城山の『権現の神』に雨乞いするよりしようがないぞ」「しかしあそこは危険な山じゃからなあ」城山の頂上の小さな池をさらえると『権現の神』が雨を降らせてくれると言われている。

白装束の村人たちは組頭を先頭に、足場の悪い山道をたいへん怖い思いをしながら頂上の池にたどりつきました。

「池の水はカラカラだが、とにかく掃除をして祈るとしよう」皆で、一心に念仏を唱えようと、あたりが暗くなると、雨粒がポツリポツリと落ちてきました。やがて、雨は横なぐりのどしゃぶりに変わり、稲妻が光ります。村人は、あわてて山をおりましたが、組頭は一人、道に迷ってしまいました。

運よく小屋を見つけた組頭が疲れて寝ていると、やせ細ったとがり口の男が脇に立って言いました。

「わしは、『権現の神』じゃ。お前たちの祈りは確かに聞きとどけたぞ。帰りはこの傘を使うがよい。」言い終わると煙のように姿を消してしまいました。

授かった傘をさして組頭が村に戻ると、村人が「その手に持っている里芋の葉はなんだ。」と聞いてきました。

「これはどうしたことか、傘だとばかり思っていたが・・・」
「どうやら白狐に化かされたようじゃ。」
「とにかく、雨を降らせてくださったのだから、ありがたいことよ。」

村人たちは、城山に手を合わせ、それから白狐に化かされても怒らなくなりました。



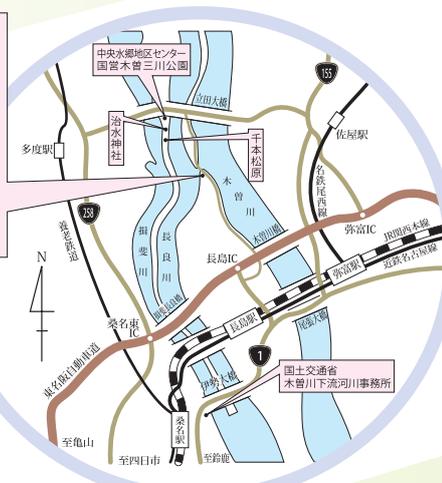
木曽川文庫利用案内

ぶんこだより

木曽川文庫



船頭平開門
《開館時間》
 午前8時30分～午後4時30分
《休館日》
 毎週月曜日(月曜日が祝祭日の時は翌日)・年末年始
《入館料》
 無料
《交通機関》
 国道1号尾張大橋西詰から車で約10分
 名神羽島I.Cから車で約30分
 東名阪長島I.Cから車で約10分



木曽川文庫ホームページ
<http://www.kisogawa-bunko.cbr.mlit.go.jp>

●ホームページで「KISSO」をご覧ください

「KISSO」の創刊号からのバックナンバーをPDF版で木曽川文庫ホームページに収録しています。また、本誌に載せられなかった特集市町村の話題を「こぼれネタ」として掲載しています。木曽三川の治水や流域市町村の参考資料としてご活用ください。

なお、本号より印刷方式を変更いたしましたので、従来と比べて見苦しい点があるかと存じますが、ご理解のほどよろしく願います。

●ホームページからのお問い合わせ募集

ホームページから問い合わせいただけるメールを新設いたしました。

まずは下記アドレスからホームページへ
<http://www.kisogawa-bunko.cbr.mlit.go.jp>
 「お問い合わせ」ページの「メール」をクリック!

弊誌では、読者のみなさんの声で構成するコーナーを企画しています。身近でおこった出来事、地域の情報などをお知らせ下さい。

宛先 「KISSO」編集 FAX: (0567) 24-5166
 mail: kisogawabnk@mist.ocn.ne.jp